

1 時間(場所) 10:00~10:50 (2年C組教室)

2 個人研究テーマ

対話的な学びを通して文章に表れたものの見方や考え方について読み深める学習指導の工夫

3 研究テーマ設定の理由

現在、様々な場でコミュニケーション能力の育成が求められているが、国語科では「伝えたいことをうまく伝えること」「伝えたい事柄、自分の考えについて、根拠を明確にして具体的に書いたり、話したりすること」「課題解決のために必要な情報を集めたり、読むべき箇所を自ら判断したりすること」に課題があると感じられる。持続可能な社会を支える資質・能力として、他者に自分の考えを伝える力、多くの情報から必要な情報を取り出し、筋道を立てて考え、表現する力は必須である。

昨年度は、言葉そのものを理解すること、言葉のつながりから文章全体はどのような内容を述べているかを的確に理解すること、そして、そのことについて、自らがどのような考えを持っているかを筋道を立てて表現することに取り組んできた。同じ表現を基にしているも、その人の考えや体験、価値観によって、理由づけの内容に違いが表れる。その違いを知ることが、相互理解を深めることにもつながるということを学んだ。

昨年度の取組を踏まえ、今年度は文章の中から、「読み深めるための手掛かりとなる言葉」を生徒自身が考え、その言葉を基に学習課題を設定することから学習をスタートする。さらに、課題解決に向けて話し合い、聴き合い、共有しながら自己内対話の時間を設け、読み深めることを目指していきたいと考えている。登場人物や筆者の心情、他者の発言の意図を読み取ったことを踏まえて、自分の意見を述べることで読みを深め、読み味わうところまでにつなげていきたい。

言葉をよりどころにして考えを深め、仲間とつながったり課題を解決したりすることが持続可能な社会を支える資質・能力につながるのではないかと考え、本研究テーマを設定した。

4 単元名 兼好法師のものの見方や感じ方を捉えよう

5 単元目標

古人の思いについて仲間と話し合い、考えを共有しながら、作品に表れている古人の思いを読み深めることができる。

〔本質的な問い〕

古典作品を読み深めるにはどのようにすれば良いのか。

〔永続的な理解〕

自分の経験を踏まえながら表現に基づいて筆者の思いについて考えることが、古人の思いや古典作品のテーマに迫ることにつながり、古典を主体的に読み深め、味わうことになる。

6 本単元と研究テーマとの関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒40名(男子20名、女子20名)は、明るく意欲的に学習に取り組むことができる。グループ学習では、個人が意見を出し合う中で、共感したり反論したりしながら力を合わせて読みを深め合うことができる。『枕草子』の学習を行った際には、随筆であることから作品には筆者の人間性が出るのではないかと、ということを考え、「清少納言はどのような人物なのだろうか」という学習課題を設定し「第一段」の現代語訳を丁寧に読み、言葉そのものや言葉のつながりから考えたことについて、仲間と協力しながら読み深め、清少納言の人物像について自分の考えを持つことができた。また、『字のない葉書』の学習を行った際には、「死んだ父は筆まめな人であった。」という一文に着目し、「筆者は作品の一番最初をなぜこの一文にしたのか」という学習課題を設定し、筆者の父親への思いについて、話し合いを通して読み深めた。

『平家物語』の「敦盛の最期」では、「自分が直実なら敦盛の首をとるか」という課題につい

て、直実が置かれている立場や状況を根拠に話し合いを行い、当時の武士の生き方について読み深めた。それぞれの授業での話し合いの様子を見ると、昨年度は仲間の意見に流されたり、自分の意見を他に伝えられなかったりしていた生徒も、少しずつ自分の意見が授業内容や友達の考えに反映していくことを楽しめるようになってきた。しかし、数名ではあるが根拠がしっかりと書けないまま意見を述べる生徒もいるため、うまく言葉にならない生徒に対しては、グループや学級全体でその生徒の思いを受け止めながら一緒に言葉を紡いでいくことを大事にしていきたいと考えている。

(2) 単元について

今回扱う『徒然草』は、兼好法師の豊かな感性と鋭い観察に基づいて、さまざまな題材を取り上げて書かれた随筆である。兼好法師が感じたことが、簡潔な文章によってまとめられているこの作品を読むことで、兼好法師の思いを知るとともに、平成の時代に生きる自分に通じるものの見方・考え方があったことを知るのに適した作品といえる。また、生徒は『徒然草』と同じ時代に書かれた『平家物語』を11月に学習し、「諸行無常」という思想の中で、武士の生き方について読み深めた後でもあるため、その時代に生きた兼好法師自身にも興味を持って読み深められるのではないかと考えている。

本単元では序段の中で唯一の率直な心情表現である「あやしうこそものぐるほしけれ」に着目し、「兼好法師がいう『あやしうこそものぐるほしけれ』とはどのような心境なのだろうか」という学習課題のもと、『徒然草』を書いた筆者の思いについて考えさせる。どのような状況や心境の中で兼好法師は「あやしうこそものぐるほしけれ」と記したのかを想像し、序段の表現や自分の体験を合わせてそれを解釈する授業展開とする。

同じ言葉であっても、生徒個々が独自の理由づけをすることで多様な読みが生まれる。読みは、言葉や出来事、登場人物や書き手の思いなどを解釈することで成立し、読み手それぞれのものの見方・考え方を反映した豊かなものとなることが期待される。言葉の意味に着目し、その意味を捉えたり問い直したりすることを通して言葉への興味を高め、言葉による見方・考え方を深めるとともに、それを個人内で終わらせることなく、他者との交流を通して想像したり考えたりする中で多様な意見を自分の中に取り入れ、多面的に読み深めさせていきたい。

(3) 指導について

本単元の目標「古人の思いについて仲間と話し合い、考えを共有しながら、作品に表れている古人の思いを読み深めることができる」を達成するために、以下3点のことに留意して指導していきたい。

一つ目は、言葉を大切にするということである。学習者の思考の基本は言葉である。言葉と言葉との関係や言葉の意味をどう解釈するかによって読みは違ってくる。言葉の一つ一つを大切にしていくことを基本において学習を進めたい。そのために、音読を取り入れ、言葉そのものと向き合う時間を設ける。音読をすることは、個人で言葉や文章、作品に込められた思いなどと向き合うための第一歩である。音を通して言葉に触れることで、見過ごしていた言葉を改めて見つめたり、その言葉の意味を考えたりするきっかけとなり、文章を読み深める手立ての一つとなるのではないかと考える。

二つ目は、協同の学びを具現する場を設定することである。学級全体で話し合う時間を設け、仲間の意見についてそれぞれが自分の考えを持ち、話し合いを行う。仲間の発言に対し疑問に感じたり自分の意見とは異なっていると思ったりした場合には積極的に自分の考えを伝えたり、仲間の意見に補足して賛同したりするなど、互いの立場や考えを尊重しながら全体で読み深めていく場を設定する。話し合いの中で自分の考えが広がったり、同じ考えを聞いて自分の根拠が一層明確になり自信が持てるようになってきたりするなど、生徒の考えの変化が期待できるような授業展開とする。また、自分や他者の思考を後で振り返ることができるように、ワークシートを工夫する。

三つ目は、相互評価を行う場を設定することである。自分の考えが深まるきっかけとなった発言をした仲間を授業の最後に発表し、賞賛する場を設ける。発言の善し悪しを判断するのではなく、発言によって言葉と自分がより深くつながり、言葉を媒体として人と人とがつながることを実感し、論理的に表現することへの意欲につなげていきたい。

7 評価計画と評価方法

評価目標(観点)	評価方法(視点)
①『徒然草』において主体的に筆者の思いに触れ、自分の体験と重ね合わせ、自分の考えを持ちながら読もうとしている。(関心・意欲・態度) ②『徒然草』序段と他の章段に表れている兼好法師のものの見方や考え方について、知識や経験と関連づけて自分の考えを持つことができる。(読むこと) ③『徒然草』に表れたものの見方や考え方に触れ、兼好法師の思いなどを想像することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	◎パフォーマンス課題 『徒然草』を書いた兼好法師の思いについて、仲間の考えをさらに深められるように『徒然草』の批評文を書きます。いくつかの章段の中から、序段に表れている兼好法師の思いが感じられる部分について取り上げながら、根拠を明確にして作品についての批評文を書きなさい。(評価目標の①②③) ○観察(評価目標の①) ○ワークシートやアドバイスの記述分析(評価目標の①②③)

8 指導計画(全6時間)

次	学習内容	評価規準(観点)	時間
1	兼好法師の思いを捉えよう ○学習内容と単元を通してどのような学習をするか確認する。 ○『徒然草』の序段を読み、語句の切れ目に注意して繰り返し音読する。 ○「兼好法師がいう『あやしうこそものぐるほしけれ』とはどのような心境なのだろうか」について話し合う。	◇「あやしうこそものぐるほしけれ」と表現した筆者の目的や意図について、他の表現や体験と関連付けて自分の考えをもったり想像したりすることができる。(読むこと) (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項) ◇話し合いを通して、自分の考えをまとめることができる。(読むこと)	1 本時
2	兼好法師の思いを踏まえて『徒然草』を読み深めよう。 ○『徒然草』の中からいくつかの章段を取り上げ、序段の思いが表れている部分について話し合う。	◇序段と他の章段に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを持つことができる。(読むこと) ◇古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いを想像することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	2
3	批評文を書こう。 ○批評文の下書きを書く。 ○仲間の批評文についてアドバイスをする。 ○仲間のアドバイスを参考にして批評文を清書する。	◇兼好法師の思いを、『徒然草』本文から自分なりに解釈し、本文や自分の体験等、根拠を明確にして考えることができる。(読むこと)	2
4	批評文を読み合い評価しよう。 ○お互いが書いた批評文を相互評価する。	◇仲間が書いた批評文を読み、『徒然草』に表れている兼好法師のものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げている。(読むこと)	1

9 本時の指導(1/6時間)

(1) 主 題 序段における兼好法師の思いを考えよう

(2) ねらい

○仲間との対話を通して兼好法師の思いを読み深めることができる。

○話し合いを通して自分の考えをまとめることができる。

(3) 展 開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◇評価（方法）
1 既習の古文の言葉について振り返る。（一斉）	2	○今まで学習した古文の中で、印象に残っている言葉を発表しよう。 ・「とくとく、首を取れ。」 ・「春はあけぼの。」	○表現に注目して学習することを意識させるために、既習古文の中で印象に残った言葉を想起させる。
2 本文を音読する。（一斉）	3	○歴史的仮名遣いを確認し、本文を音読しよう。	○歴史的仮名遣いや語句の切れ目に注意し、音読する。
3 学習課題を提示する。（一斉）	5	「あやしうこそものぐるほしけれ」とはどのような心境なのだろうか。	○「あやしうこそものぐるほしけれ」に注目させるために、その部分だけ空欄にし、後の語句には注釈を載せたワークシートを配付する。
4 学習課題の解決に取り組む。 (1)意味を確認する。（一斉）	37 (4)	○「あやしうこそものぐるほしけれ」にはどのような意味の言葉が入るか予想しよう。	○序段全体から意味を想像させるために、序段の他の表現と関連付けて考えるよう補足する。
(2)序段の兼好の心境を考える。（個人）	(10)	○「ものぐるほしけれ」の意味を古語辞典で確認しよう。 ・狂気じみた気持ちになる。 ・気持ちが高ぶっている。 ・ばかばかしい気持ちになる。	○古語辞典に様々な解釈が載っていることを知らせるために、教師が辞典を引いて意味を確認する。
(グループ)	(5)	○筆者がいう「あやしうこそものぐるほしけれ」とはどのような心境なのか、自分の考えをワークシートに書こう。	○序段の表現や自分の経験と関連付けて考えることを生徒に伝える。
(個人)	(3)	○課題についてグループで話し合おう。	○思考を整理させるために、考えとその根拠をワークシートに書かせる。
(3)課題について交流する。（全体）	(13)	○自分の考えを見直そう。	○考えの根拠を明確にしたり、新たな視点に気付かせたりするために、仲間と話し合いをする。
		○自分の考えを発表し、話し合おう。 ・夜一人でゲームを長時間した後、同じように思うときがある。筆者も一日中硯に向かって書いていたら、なんだか「妙にばかばかしい気持ちになる」と思ったのではないか。 ・友達とのLINEで「よしなしごと」のやりとりし、改めて読むと、訳の分からないことを書いていて恥ずかしい気持ちになったので、筆者も「自分は妙に狂気じみていた」と思ったのではないか。 ・書き始めると、書くことが次々に浮かんできて「不思議と気持ちが高ぶっている」と思ったのではないか。	○話し合いを通して、補足や発見があった生徒には加筆させる。 ○兼好法師の思いについて読み深めさせるために、仲間の意見に反論したり質問したりしながら、自分の体験を踏まえて発表するよう促す。 ◇兼好法師の考え方について、他の表現や体験と関連付けて自分の考えを持つことができる。（発表・ワークシート） ◇話し合いを通して自分の考えをまとめることができる。（発表・ワークシート）
5 本時の学びを振り返る。（一斉）	3	○意外だった発言、納得した発言、自分の読みを変えた発言等について発表しよう。 ・A君の発言から、書くことの意味について考えることができた。	○話し合いを通して、補足や発見があった生徒には加筆させる。 ○兼好法師の思いについて読み深めさせるために、仲間の意見に反論したり質問したりしながら、自分の体験を踏まえて発表するよう促す。 ◇兼好法師の考え方について、他の表現や体験と関連付けて自分の考えを持つことができる。（発表・ワークシート） ◇話し合いを通して自分の考えをまとめることができる。（発表・ワークシート）
授業研究の視点	学習課題について学級全体で話し合う活動は、文章に表れたものの見方や考え方について根拠を明確にしながらか読み深めるのに効果的であったか。		